

俺は直感したのだ「ハテ怪しや刑事かな」

俺は直ぐ飛び降りた。

そして走つた。

續いて飛び降りた運転手も助手も、敢て追はふとはしなかつた。

「キサマ死ぬる氣か、馬鹿、キチガヒ、ヌスツト」

取り逃した腹立で昂奮して、後から熱湯のやうに浴せた。

俺は厭な氣がした。が其の儘御殿場の方へ向つて進んだ。

馬に焚木や、竹かを脊負はせて來る男に出遇つた。

ずん／＼行くと、先刻の細道へ曲らないで大通りがあるのだつた。

少し宛上り坂になつた。

半里ばかりも自動車を降りてから歩るいた、人家が見えた。

急坂にさしかゝつた。

畑をゴソ／＼耕してゐる男がゐた。